

付 満鉄対米借款問題

238

昭和2年11月1日 在ニユー・ヨーク内山總領事代理より
田中外務大臣宛

満鉄のモルガン商会に対する借款交渉に関する新聞論評報告

付 記 満蒙開発のため鐵道敷設資金を募集についての
山本満鉄社長よりラモントへ申入れ案(十月中旬)
(11月22日接受)

普通第五四四号

昭和二年十一月一日

在紐育

総領事代理 領事 内山 清(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

南滿鉄道ノ「モルガン」商會ニ対スル新借款

交渉ニ関スル新聞評報告ノ件

過般当地「モルガン」商會「ラモント」氏渡日ノ結果、滿鉄ハ今回撫順炭鉱拡張ノ為メ同商會トノ間ニ四千万弗ノ借款交渉中ナリトノ風評ハ去ル十月二十九日當地新聞ニ掲載セラレタルカ之ニ対シ十月三十一日ノ「ジャーナルオブコム

満鉄社長ヨリ「ラモント」氏ヘノ申入案
(昭和2年10月中旬)

南滿州鐵道株式会社ハ滿州及東部内蒙古ニ於テ支那側ノ敷設スヘキ鐵道資金ヲ供給シ以テ滿蒙ニ於ケル鐵道網完成ノ(欄外記入)一日モ速カナラムコトヲ希望シテ已マサル次第ナルカ右実行ニ関連アル事項ニ付貴下ノ深甚ナル御考慮ト同情アル支持ヲ希望セントス

抑モ滿州及東部内蒙古一帯ノ地方ハ我領土ニ接壤セル自然ノ結果トシテ我國防並ニ國民的生存ニ極メテ深甚特異ノ關係ヲ生シタリ為メニ同地方ニ於ケル事務カ國家ノ緊切ナル安危ノ問題ヲ包含シ且鐵道敷設カ滿蒙開発ノ基礎ヲ為スモノナルコトハ既ニ貴下ノ承知セラル所ナリ惟フニ日本國ノ現ニ直面スル政治上社會上並ニ經濟上ノ最大重要事項ハ一年百万人ヲ超ユル人口增加ヲ如何ニシテ处置スヘキヤノ問題ナリ若シ之カ措置ヲ誤ラムカ日本ニ取り甚大ノ危險ヲ齎ラスヘシ而シテ之力対策トシテハ海外移民ノ獎勵ヲ挙ケ得ヘキモ目下情勢ニ於テハ極メテ限局セラレタル地域ニ問題ノミナラス往々ニシテ國際紛議ヲ釀成スルノ虞アリ從テ我

マース」紙ハ別添切抜ノ如キ社説ヲ掲ケ新借款ヲ批評セリ即チ同紙ハ冒頭本件借款ニシテ成立ノ曉ニハ極東ノ政治經濟上ノ發展ニ一重大事ヲ齎スニ至ルヘシト述ヘ我國ノ二大問題タル海外移住地開発及產業立國問題ニ言及シ我外交力近年前者ヨリモ寧口後者ニ重キヲ置キ原料品ノ供給地獲得及其ノ生産品ノ販路拡張ニ力ヲ注ギ來レルヲ指摘シ其ノ原材料供給上最モ重要ナル地盤ハ滿州ナルモ日本ハ此ノ政策遂行ノ上常ニ資金ノ欠乏ニ苦ミ來レリトテ特ニ戰後ノ不況大震災後ノ打擊大ナリシヲ述ヘ今次ノ起債カ大正十二年東拓カ政府保証ノ下ニ「ナショナルシティ・バンク」ヨリ資金ノ供給ヲ受ケ滿州ノ開發ニ從事セルト同様滿州ニ於ケル我產業拡張資金ニ充テラルヘキヲ説キ滿州ノ中心ヲ横切りテ広汎ナル租借權ヲ所有スル同鐵道ハ一方張作霖トノ親善關係ニ依リテ容易ニ其ノ拡張計画ヲ実行シ得ヘシ云々ト評セリ

(付記)

日本ハ素ヨリ満蒙鉄道敷設ニツキ関係国財團乃至一般欧米資本家ノ出資ヲ拒否シ自國資本ノミニ依リ鉄道建設ヲ実行セントスルノ意思ナク却テ関係国ニ於テ投資ヲ希望セラルニ於テハ素ヨリ喜ンテ其ノ協力ヲ歓迎スル次第ナリ又日本ハ從来満蒙ニ於ケル機会均等主義ヲ支持シ列國ノ支那ニ來ツテ商工業ノ活動ヲ為スヲ阻塞スルノ意思ヲ抱懷シタルコトノナカリシハ貴下ノ承知セラル所ナルカ此ノ態度ハ今次ノ政友会内閣ニ於テモ將又現南滿州鉄道会社社長ニ於テモ素ヨリ之ヲ変更スル意思ナキノミナラス却テ自ラ進ンテ他国ノ協力ヲ招請セントスル決意アルハ茲ニ言明スルヲ憚ラサル所ナリ

以上ノ方針ト見解トニ基キ南滿州鉄道会社ハ満蒙ニ於ケル鉄道ノ普及ニ付今後益々全力ヲ注キ以テ日本ノ遭遇スル危機ヲ脱スルト共ニ支那ノ利益ヲ増進シ機会均等主義ノ精神ノ徹底ヲ期スル最モ本懐トス就テハ此ノ際南滿州鉄道会社ノ借款鉄道又ハ工事請負鉄道ニ付キ要スル資金ヲ海外市場ニ募集スルニ当リテハ好意ヲ以テ之ニ応セラレムコトヲ希望シテ止マサル次第ナリ

前記ノ投資方法ハ欧米金融界ニ取り何等有害ナラサルノミ

満州鉄道会社カ過去數年間支那鉄道敷設ニ対シテ為シタル投資ハ純然タル支那側ノ企業ニ対シ finance ヲ為シタルニ止マリ何等厳格ナル条件ヲ付セス唯利息ノ差ヲ利得スルニ満足シタリ段レ南滿州鉄道会社カ前記ノ傾向ニ鑑ミタルト同時ニ鉄道敷設ニ依ル満蒙開発ナル間接ノ国家的利益ヲ得ントスルニ依ルモノナリ此ノ事実ニ付切ニ貴下ノ考慮ヲ煩ハシ度シ

(欄外記入)

齊藤理事ノ持參シタル案ニ亞細亞局長ノ修正ヲ加ヘタルモノ

239 昭和2年11月3日

田中外務大臣より
在米國松平大使宛(電報)

満鉄借款交渉は當分の間保留し交渉結果についても発表せざるを最善の策と信ずる旨のラ

モントより井上日銀總裁宛電報について

本省 11月3日後發

第三四六号 極秘
往電第三四〇号ニ關シ

三日「ラモント」ハ井上日銀總裁宛長文ノ電報ヲ寄セ本件外債ニ就テハ支那各方面ヨリ頻リニ抗議申出アルノミナラ

ナラス却テ有利確実ナルコトハ亦貴下ノ明察セラル所ナルヘシ蓋シ欧米金融業者カ直接支那政府ヲ対手トシテ借款契約ヲ締結セントスルモ支那鉄道公債ノ市価ノ甚シキ崩落ト相俟チ確実ナル担保ノ乏シキコト又仮リニ鉄道ヲ担保トシタリトスルモ支那ノ現状ニ於テハ担保権実行ノ見込ナク東三省ニ於テ実行ヲ強制シ得ルモノハ恐ラク日本ノミナルコト等ニ徵シ欧米財界ニ於テハ此ノ種不確ナル公債ノ応募者ヲ得ルコト極メテ困難ナルヘシ然ルニ若シ欧米金融業者カ南滿州鉄道会社ヲ直接ノ債務者トシ支那側ニ間接投資ヲ為スノ方法ニ依ルトキハ会社ハ素ヨリ全責任ヲ以テ債務ノ償還ヲ為スヘク(南滿州鉄道会社ノ財政状態ハ極メテ良好ナリ)又事實上日本国政府ハ右償還ヲ保証スヘク旁投資者ハニ重ノ確實ナル保証ヲ与ヘラルヘキニ依リ單純ナル營業ノ見地ヨリスルモ亦決シテ不利益ナル投資ニアラサルハ信シテ疑ハサル所ナリ

次ニ支那ノ現状ニ照スニ對支借款ハ從前ノ如ク繁煩嚴格ノ条件ヲ付シ投資者カ鉄道建設ニ關スル特殊ノ利益ヲ獲得シ且ツ営業ニ付キ嚴重ナル管理権ヲ掌握スルカ如キハ不可能ニ近ク借款團ノ連合ノ力ヲ以テスルモ到底望ミナシ現ニ南

ス国内諸種ノ団体ヨリ國際關係ノ悪化ヲ憂慮シ來ル向モアリ國務省ノ意見ハ今尚變化ナキ次第ナルモ多少不安ヲ感シ居ル模様ニテモ有リ旁世間ノ靜マル迄當分此ノ儘ニ致シ置ク方双方ニ利益ナルヘキ旨並日米何レノ側ニ於テモ右之次第ハ勿論本件外債交渉ノ結果ニ就テモ一切沈黙ヲ守リ成立シタリトモ不成立ニ終リタリトモ發表セサルヲ最善ノ策ト信スル旨申越シタリ

右「ラ」発井上宛電文写ハ在紐育日銀監督役ヨリ貴官ニ策付ノ答

英及紐育ニ転電シ英ヲシテ仏ニ暗送セシメラレタシ

240 昭和2年11月18日 在ニュー・ヨーク内山總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

満鉄借款につきラモント等とケロッグ國務長

官等との会談に関する新聞報道について

本省 11月18日後發
ニュー・ヨーク 11月19日後着

第六六号

十八日發行ノ当地各新聞ハ「モルガン」社「ラモント」及「ネショナル、シティー、バンク」「ミツチエル」ハ十七日

國務省ニ於テ「ケロツグ」及極東局長「ジョンソン」其他ト満鉄借款ニ付テ会談セルカ該借款ハ支那ニ於ケル門戸開放機会均等並ニ借款團ノ関係ヨリ慎重考慮ヲ要スヘク從來國務省カ反対ヲ表明シタル外國借款ハ米国へ負債ヲ返還セサル國ニ対スルモノ、米国ニ不利益ナル独占的事業ニ対スルモノ及(脱)惹起スル憂アル武器購入ノ為ニスルモノ等ナリト報道シ居レリ右ニ関シ「モルガン」社支那係「シン・ソン」氏ノ十八日本官ニ内話スル處ニ依レハ「ラ」氏カ日本ヨリ帰来ノ挨拶ノ為國務省ニ赴キタルハ事実ニシテ自然其席上満鉄借款ノ事モ言及シタルナラムモ右報道ハ恐ラク記者側ノ推測ニ係ルモノナラムト思考セラル尤モ单ナル私見トシテハ日本政府カ該借款ヲ保障スル以上ハ仮令其投資先カ支那内ナリトルモ借款團ノ範囲ニ入ルヘキモノニ非ス矧ヤ之カ投資ノ目的カ實業方面ニ在ルトセハ何等束縛ヲ受クヘキモノトハ思ハレス外國借款ニ対スル國務省ノ監督ニ関シ最近上院議員「カーターグラス」等ニ於テ反対ヲ表示シツツアルモ右監督ハ絶對的ノモノニ非ス少クトモ國務省側ニ借款ノ成行ヲ報告シ且必要ノ注意ヲモ受クル事ハ投資者トシテモ有利ノ事ト思料ス云々「ラモント」ハ去ル

「ラ」ハ帰米後關係財團トモ篤ト協議ノ上出来得ル限り満鉄ニ有利ナル条件ヲ申送ルコトニ打合セ帰国シ今日ニ及ヒタル趣ナリ尚「ラ」渡日ノ用務ハ内地復興状況視察ニ在リタルヲ以テ表面業務上ノ打合セヲナスコトヲ憚リタル等ノ關係モアリ本件商議ハ當分絶対秘密トルコトナリ居ル由御含ミ迄

242 昭和2年11月23日

在ニユー・ヨーク内山總領事代理より
田中外務大臣宛

新聞記事について

機密第六〇七号 昭和二年十一月二十三日

在紐育

総領事代理 領事 内山 清(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿
満鉄新借款ニ関スル新聞記事報告ノ件

十一月十八日付往電第六十六号拙信ヲ以テ報告シ置キタル「ラモント」氏「ミッショル」氏國務長官「ケロツグ」氏及極東局長「ジョンソン」氏等ハ満鉄新借款ニ関シ協議シ

國務省ニ於テ「ケロツグ」及極東局長「ジョンソン」其他ト満鉄借款ニ付テ会談セルカ該借款ハ支那ニ於ケル門戸開放機会均等並ニ借款團ノ関係ヨリ慎重考慮ヲ要スヘク從來國務省カ反対ヲ表明シタル外國借款ハ米国へ負債ヲ返還セサル國ニ対スルモノ、米国ニ不利益ナル独占的事業ニ対スルモノ及(脱)惹起スル憂アル武器購入ノ為ニスルモノ等ナリト報道シ居レリ右ニ関シ「モルガン」社支那係「シン・ソン」氏ノ十八日本官ニ内話スル處ニ依レハ「ラ」氏カ日本ヨリ帰来ノ挨拶ノ為國務省ニ赴キタルハ事実ニシテ自然其席上満鉄借款ノ事モ言及シタルナラムモ右報道ハ恐ラク記者側ノ推測ニ係ルモノナラムト思考セラル尤モ单ナル私見トシテハ日本政府カ該借款ヲ保障スル以上ハ仮令其投資先カ支那内ナリトルモ借款團ノ範囲ニ入ルヘキモノニ非ス矧ヤ之カ投資ノ目的カ實業方面ニ在ルトセハ何等束縛ヲ受クヘキモノトハ思ハレス外國借款ニ対スル國務省ノ監督ニ關シ最近上院議員「カーターグラス」等ニ於テ反対ヲ表示シツツアルモ右監督ハ絶對的ノモノニ非ス少クトモ國務省側ニ借款ノ成行ヲ報告シ且必要ノ注意ヲモ受クル事ハ投資者トシテモ有利ノ事ト思料ス云々「ラモント」ハ去ル

貴電第一二一九号ニ關シ

241 昭和2年11月22日 在中国芳沢公使宛(電報)
満鉄借款交渉は利廻及び償還方法の点で意見

不一致の状況について

本省 11月22日後発

十四日本官ト会談ノ際ハ満州ニ於ケル支那側ノ排日運動ニ關シ懸念スル處アリタルニ付本官ハ満州ニ於ケル支那官民ハ其体面ト地位トヲ維持スル必要上時々排日的行動ヲ敢テスルモ元來同地方ニ於ケル我經濟的施設ハ直接支那側ノ利益トモナルヘキモノナルヲ以テ心ヨリ反対シ居ルモノトハ思考セラレスト述へ置ケリ
在米大使ヘ暗送セリ

満鉄側ノ言フトコロニ依レハ「ラモント」來朝ノ際満鉄ハ井上日銀總裁ヲ通シ三千万弗ノ米貨社債引受方ニ付「ラ」ノ意向ヲ探リタル処「ラ」ハ「モルガン」商會トモ打合セノ上好意ヲ以テ之ニ応スルコトヲ承諾シタルモ利廻及償還方法ノ点ニ付「モ」商會ト満鉄トノ意見一致セサリシ結果タリトノ報道ニ關シ當地「ジャーナルオブコンマース」紙ハ更ニ十一月二十二日付大要左記ノ如キ記事ヲ掲載セリ國務省ノ當該借款ニ対スル態度ニツキテハ未タ何等ノ決定アリタリトハ思考セラレサルモ國務省側ハ該借款ヲ承認スルニツキテハ日本カ忠実ニ門戸開放主義ヲ遵奉スルコトヲ要件トルコト述ヘタリト報道セラル該政策ニヨレハ乗客貨物兩者ニ於テ日本ハ凡テノ國民ニ平等ナル待遇ヲナサル可カラス
又國務省ノ一部ノ役人中ニハ政府トシテハ満州資源開發ニ援助ヲ与ヘルコトハ慎ムヘク且又奉天ヲ中心トシテ排日運動行ハレツツアル現勢ニ鑑ムレハ猶更慎重ナル態度ヲ要ス
トノ意見ヲ抱ケル者アリ
サレト又或一部ニ於テハ從來日本ノ満鉄事業ニ反対セシコトナキ米国トシテハ今般ノ満鉄新借款ニ対シテ何等反対スルノ要アルマシク且從來ノ國務省ノ外國借款ニ対スル態度ヲ熟知セル「ラモント」氏ニシテ國務省ノ許可スヘクモナキ借款ノ交渉ヲナスタメ日本ニ態々旅行セシトモ思ハレスト

右新聞切抜送付スルニ付御査収相成度シ

243 昭和2年11月29日 在米國松平大使より
田中外務大臣宛 (電報)

滿鐵借款は全然私的取引で反対する理由がない旨の國務省発表等に関する新聞記事について

て

ロシハムヘン 発
本 省 11月29日後着

往電第二九四号三閑シ

各新聞紙ノ報スル處ニ依レハ二十五日國務省ヨリ本件借款ハ全然私的取引ニシテ同省トシテ之ニ反対スヘキ理由ナシ

トノ趣旨ヲ口頭ヲ以テ發表セル趣ナリ

各新聞トモ重要記事欄ニ支那側ニテ本件借款ニ反対ナル旨ノ同國發電報ヲ記載セル外在当地支那公使カ最近往電第二九四号所載決議文ヲ國務省ニ取次キタル旨ヲ報スル等鮮力ラス注目ヲ引キ居タル處二十八日ノ「バルチモア・サン」ハ滿鐵ヲ強大ナラシムルコトハ則チ日本ノ滿州ニ対スル把握ヲ鞏固ナラシムル所以ナリトテ右國務省ノ態度ニ反対ノ意ヲ表明シ二十六日ノ「ウォールド」ハ本件借款ノ投資先

244 昭和2年11月29日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛 (電報)

滿蒙問題その他の關する楊宇霆の米國新聞記者との会见談について

別電 十一月二十九日着在中国芳沢公使より田中外務大臣宛第一二四八号
満鐵借款に反対する楊宇霆の会见談内容について
て

北京 発
本省 11月29日後着

タル滿州カ東亜政局上極メテ危險ナル地域タル事ヲ指摘シ尚二十八日ノ「ブルックライン・デーリー・イーグル」ハ該借款ハ純取引上ヨリ見レハ危險少キモノナルモ國務省カ借款監督ノ方針ヲ執リ居ル關係上同省今回ノ措置ニ付テハ外交政策ノ見地ヨリ種々ノ議論アルヘク議会ニ於テモ質問ノ種トナルヘシト述べ居レルカ同日ノ「ハイラゲルヒヤ・レツヂヤー」ハ日本カ滿州ヲ手離ス事ハ同地方ノ利益ヨリ見テ好マシカラス況ヤ露国カ同地方ヲ虎視シ居ルニ於テオヤト述ヘタリ

紐育及英、仏へ郵送セリ

第一二一四七号

二十九日楊宇霆ハ米國新聞記者及路透記者ヲ招キ滿蒙問題其他ニ關シ会见談ヲ為シタルカ右ニ付「リバウマーク・タイムズ」当地特派員發電通信写極秘入手シタルリ付其概要御参考迄ニ別電第一二一四八号ノ通電報ス

尚楊ハ右会談後会见シタル本庄中将ニ対シ滿蒙解決ニ対シテハ甚タ苦シキ立場ニ在リトテ零シ居タル趣ナリ尚連合社カ「ハーメー」通信員ノ發電原稿ヲ貰受ケ其體電報シタルモノハ更ニ言辞激越ナル部分モアリ連合本社ヨリ御取寄せ御披閱アリタシ

別電ト共ニ在奉天總領事へ轉電セリ

(電 電)

Peking,
Rec'd., Nov. 29th p. m. 1927.

Gaimudaijin, Tokio.

No. 1248

⁽¹⁾If the proposed Morgan loans to the South Manchuria Railway, are consummated, the Peking Govern-

ment and the Chinese people, will hold it a provocative act and hold the American Government and people responsible.

We welcome direct American investments in Manchuria, but if the Morgan loan is made, it will release other railway funds to be used for the purpose of furthering Japanese political aims.

It is regrettable that Japan enjoys a degree of American confidence for even if the loan is made, China will not permit the building of the South Manchuria line from Kirin to the Korean border.

⁽²⁾Washington maintains the old Treaty gives the right to build, China declares that the Treaty merely gives Japan the preference in financing if build.

Other 3 Powers misunderstand the relation of the question to Japan's internal politics.

The Tanaka Cabinet feels the Parliamentary election may be won by appealing for the patriotic support for the development of Manchuria.

Misleading propaganda is flooding the American press to gain this money for this purpose. For instance, recent cables declare that the Peking Tokio negotiations agent Manchuria have reached the documentary stage. The fact is, negotiations are under way. China denies the excuse of even opening any parleys. The only discussion occurred when President Yamamoto of the S. M. Railway visited Chang Tso-lin.

⁽³⁾ He is not a diplomat, even the Yamamoto statements were later disavowed by Premier Tanaka. The former pledged Japan not to object to China building the Kirin-Peking-Tsitschihar railways. Later, Japan officially protested.

Japan are uninterested in all Chinese money used, even Manchuria provincial official were uninformed. The first hint of the building was to a foreigner last sum-

which was a matter of informal discussion between your good self and myself during your recent stay in Japan, I am authorised by the Japanese Government to state that "the Japanese Government has no intention whatever of discriminating against foreign interests or interfering with their operations in respect of their trade or business enterprises in Manchuria, including as a matter of course the transportation of foreign commodities. The Government has been and is prepared to do all in its power to live up to the policy above described."

As to the alleged interference with the transportation of American rails for the construction of Chinese railroads in Manchuria, I am happy to inform you that the Government ordered investigations to be made and is assured that there is no truth in the report.

mer. Lord Willingdon was shown maps. He told the story to British papers. Japan protest the Tsitschihar-Peking and KSN-Peking railways as paralleling the South Manchuria line, but can not stop our building, we also develop Hulutao rival Port to Dairen, without either British or other foreign assistance.

Yoshizawa.

245 昭和二年11月29日 井上田銀総裁より出済次官に
手交された満鉄借款交渉に関する電報写（十一月十五日付より同月二十九日付まで）

日本銀團は外國の經濟活動に対する
影響がなほる前から米國側に反対する

満鉄借款は内外の状況より見て実行延期方得

（署名）
With reference to the proposed American issue of a loan of the South Manchuria Railway Company,

満鉄借款は内外の状況より見て実行延期方得
策などもあつて
（署名）
With reference to the proposed American issue of a loan of the South Manchuria Railway Company,

「ハヤハム」宛電報案を外務省で修正の上発電したる
旨。

（本題）

昭和二年十一月二十八日
井上田銀総裁出済次官手交

満鉄外債ニ関スル電信写

満鉄社長ヨリ井上總裁宛電信（十月十五日着）

基礎条件ヲ定メ置クヨリ同意、利札面利率ハ六分取金利
廻リ六分半以内ノ希望ナリ、大体右ノ諒解ニテ具体的相談
ハ時リ於テ確定ベシヨリ、尚政府ト他田打合セキノ結果半額
倫敦ニテ応募スルヤセ知ノベト念ノ為メ承諾ヲ得置クロ
レ「ハヤハム」ハ本領社ノ社債ニベ從来會テ
之ヲ条件ニヤシ例ナキヨリシキ是非控除スル様致シ度
ハ。

井上（総裁） 山本社長宛電信（十六日発電）

十月十五日發費方電信倫敦ニテ応募ノ意味聊カ不明ナル
カ若シ別個ニ倫敦ト紐育ニ半額宛ヲ發行スル趣旨ナレバ發
行額カ余リニ小額トナリ又手續煩瑣トナリ且又小生カ「ハ

モント」ト話シタル事ト根本ニ於テ大分相違アリ然シ倫敦「シンジケート」ヲシテ半額位加入セシムル趣旨ナレハ既ニ「ラモント」氏モ倫敦「シンジケート」ヲ加入セシムル様勧誘スト申シ居ルヲ以テ貴方モ之ヲ希望スルコト「ラモント」ニ通シ其ノ実行方ハ「モルガン」商会ニ一任スルカ又ハ從来ノ関係ニ鑑ミ日本側ヨリ直接倫敦ニ交渉スルコト妥当トルナラハ実行方法トシテハ次ノ如ク為シテハ如何此点重要ナルコトナレハ御迷惑乍ラ折返シ御返事願度即チ「ラモント」氏カ倫敦「シンジケート」ニ交渉スルト同時ニ日本財務官ヨリモ加入ヲ直接ニ勧誘セシムルコトヲ「ラモント」ト協定シ置クコト

満鉄社長ヨリ井上總裁宛電信

(昭和二年十月十七日着)

償還期限ハ二十五年トシ期限内ト雖モ隨時買入レ償還ヲ為シ得ルコト勿論ナリ、半額倫敦ニ於テ募集ノ件ハ國際間ノ關係ヲ顧慮シタルモノニシテ「モルガン」商会ヲ通シ之ニ「ペインド」サレルコトハ大体ノ見地ヨリ不利益ト思考ス然レトモ事情ノ許ス限り全部ヲ紐育ニテ募債シタキ考ナ

是亦「ラモント」帰着ノ上ノ問題トシタリ此点ニ付キテハ當方ニテ研究ノ上意見ヲ申上クルコトアルヘシ又「モルガント」商會ハ貴社ト倫敦「シンジケート」トノ從來ノ關係ヲ尊重シ其直接關係ヲ持続セラルコトヲ希望スト「ラモント」言明シ倫敦「シンジケート」ノ米國發行加入ヲ日本財務官ヨリ直接勧誘スルニ対シ何等異議ナシ予定ノ通り本日「ラモント」ハ出発セリ

紐育監督役へ 十一月四日発電

乙号

一、満鉄外債募集ニ關シ極秘裡ニ「ラモント」ト交渉ヲ為シタルカ滯在期間短カカリシ為メ充分協議スルコトヲ得ス結局「ラモント」帰米ノ上ニテ更ニ研究シ何分ノ条件ヲ申出テ吳レル事トナリ居レリ、今後正式ノ交渉ハ正金銀行紐育支店長カ其衝ニ当ルヤモ知レサレトモ現在正金銀行ハ全ク本件ニ關与シ居ラス予備的交渉ハ往復ハ極秘ヲ要スルニ付貴役ヲ通スル事トセリ此儀御承知置相成度二、紐育ニ於ケル日本物ノ相場ニ關シ著シキ変動アリタル場合ニハ特ニ電報相成度

り、尚内地金融界ノ状況ニヨリ近キ将来ニ於テ更ニ有利ナル条件ヲ以テ内債ヲ募集シ得ルカ如キ事情ニ立チ至ラハ株主間ニモ議論ヲ生スヘク旁々本件ハ根本ヨリ改正ヲ要スルコトトナルニツキ此点予メ「ラモント」ニ諒解セシメ置力ル様御話シ置キ願フ

井上總裁ヨリ山本社長宛電信(十月十九日着)

十五日付貴電ノ趣旨ヲ「ラモント」ヨリ紐育へ打電シタルニ対シ「モルガン」商會ヨリ返電アリタルカ償還年限ヲ二十五年ニ短縮セルト最近紐育ニ於ケル日本証券類下落ノ為メ試算ノ結果發行者利廻六分七厘余トナリ又減債基金条項ヲ削除スルコトハ到底不可能ナル趣ナリ右ニツキ「ラモント」ト協議ヲ重ねタルカ「ラモント」ハ「モルガン」商會力市場ノ状況ノ許ス限り貴社ノ為メニ最善ノ努力ヲ為スヘキハ勿論ナリト云ヘリ依テ利廻ニ付キテハ「ラモント」紐育ニ帰着ノ上其時ノ市場状況ニヨリ更ニ試算研究ヲ為シ条件ヲ申出テ吳レルコトシタリ又減債基金ニ関シテハ全然之レヲ削除スルコトハ貴方ノ希望ニ副ヒ難キモ減債基金設置ノ方法及時期ニ付テノ修正ナラハ考慮スヘシト云フニ付

紐育監督役ヨリ 昭和二年十一月十日発電
同 同
十一日着
れ号 「ラモント」ヨリ總裁ヘ
遅延ノ儀遺憾ナレトモ確報前解決スヘキ一点生シタリ、来る月曜ニハ確報シ得ル見込

紐育監督役ヨリ 昭和二年十一月十四日発電

乙号

そ号 「ラモント」ヨリ總裁ヘ

多謝更ニ延引遺憾ナレトモ貴下及団、森両氏ト談合シタル如ク支那時局ニ付「ワシントン」ヲモ含メル利害關係人全部ト談合スルヲ可トスヘシト思考ス從テ確報木曜日又ハ金曜日トナルヘシ

紐育監督役ヨリ 昭和二年十一月十八日発電

同 同
十九日着

当地主要新聞紙上ニ「ラモント」及「ミツチエル」昨日つ号

(四)一方ニ於テ米國政府ハ從來滿蒙ニ於ケル日本ノ特務地位ヲ承認シ來レル關係上本外債ニ關シ特ニ異議アル筈ナシトノ説モアリ殊ニ「ラモント」ハ國務省ノ方針ヲ熟知シ居リ若シ政府ニ異議アルモノナレハ日本ニ於テ交渉ヲ開始シタル筈ナシト説ク者モアリ

昭和二年十一月二十二日発電
同 二十三日着

明日重要ニシテ且望マシクハ御満足ヲ得ヘキ通信ヲ発シ得
ヘキ見込

レルモノナリ余ハ余ノ日本人間ノ友人カ日本ハ南滿州ニ於テ米国品ノ運送又ハ米国人ノ関係事業ニ対シ何等差別的待遇ヲ為スコトナカルヘク之ハ云フ迄モナク一九二二年ニ於ケル華盛頓軍備縮少条約ノ周知ノ条項ニ順応スルモノナリト説示セル旨ヲ同業者並ニ華盛頓當局ニ談レリ

347

（三）米国政府ハ單三門戸開放ノ点ニ付テノミ考慮セルモノニ
シニ、清失事美ニ同々付テ、其義一端ヘソノヘ、一ノ、其ノ

紅育監督役來電
昭和二年十一月二十三日發
同
二十四日着

經表宛

点ヨリ觀察スルヲ要ス、最近奉天ヲ中心トスル排日運動等ハ米国当局ヲシテ一層深甚ノ考察ヲ払ハシムル一因ヲ為セリ

トモ日本カ露国ヨリ得タル財産ヲ更ニ拡張シテ其ノ満蒙

事態明瞭トナシテ Private Banker へ計画中ノ外国債ニ
付總テ國務省ノ内諾ヲ求ムヘシトノ一般的諒解アリテ數年
前國務省カ National City Bank ヌ日本興業銀行トノ間

總裁宛

トモ日本カ露国ヨリ得タル財産ヲ更ニ拡張シテ其ノ満蒙

「ラモント」ハ在奉天日本人カ「ヨー、エス、スチール」
ヨリ滿州ニ於テ建設中ノ支那鉄道ヘノ「レール」積出三千
噸シタリトノ奉天ヨリノ報告ニヨリテ Situation ニ新ニ一
factor 加ヘラレタリト為ス

満鉄社債ニ関スル日本ノ Journal of Commerce 記事要旨左ノ如シ御参考迄ニ

日本電力株式会社タ賃九九七〇、〇〇〇〇弗、六分半二十
五ヶ年、九二半
竹原当地三於テ

細育財務官ヨリ
昭和二年十一月二十二日發電
同
一三日着

「ワシントン」ニ赴ケル記事ヲ掲載、右ハ主トシテ満鉄社
債起債ニ關スル國務卿ノ意見ヲ確ムルカ為メナリシカ如ク
日本ノ滿蒙新規發展ニ資スル起債ニ付テハ支那ニ於ケル機
会均等門戸開放ノ方針ニ関連、慎重ニ考究ヲ要スルモノア
レハナルヘシト報導ス

ルヘシト思考ス

トヲ銀行家トシテ我々ニ対シ貴下ヨリ保証ヲ与フル様日本

政府ヨリ貴下ニ依頼シタル意味ノ (In effect that Japanese Government has asked you to give assurance to us as Bankers) 電報頂戴致度

右ノ保証ヲ得ルニ於テハ國務卿ハ異議ヲ撤回スヘク然ル上ハ東京ニ於テ談合シタル滿鉄社債起債ニ対シ確定的提案ヲ為スコトヲ得ヘシト思考ス

華盛頓ノ方針斯ク好意ヲ示スニ至ラハ此ノ外債商議ヲ直チニ進ムルコトカ滿鉄ニ取りテ利益ナルヘキハ申上クル迄モノク若シ伝フル所ノ五〇、〇〇〇、〇〇〇円ノ内債發行セラレ又此ノ三〇、〇〇〇、〇〇〇弗ノ外債成立セハ其結果同社ニ所要以上ノ資金ヲ与フルコトナルニ非スヤ小生合ニ迄ニ承知致度

貴下ノ回答有之次第直ニ respond ベシ

正金銀行紐育支店ヨリ 昭和二年十一月二十三日發電
同 一十五日着

本電極秘

Lamont 申込ニ拠リ本日会見シタルニ同人ハ井上準之助宛

ヲ完成シ度ト思ヒ居レリ自分ハ米国人ノコトニモアリ此種ノ意見井上準之助ニ電報スルコト今後ノ record ニモナルト考ヘラルニ付貴下ヨリ児玉謙次ニ何トカ説明吳間敷ヤトノロトニ有之小生然ラハ井上準之助ヨリ適當ノ声明アラハ國務省モ内諾スヘキヤト反問シタルニ確信アリト答ヘ reasonable term ニテ出来ルヤト尋ネタルニ現在横浜市債並H 94 1/2 乃至95覀当ニテ出来得ヘシト答ヘタル為メ本件カ円満進捗スルコト希望スル旨ヲ述ヘテ別レタリ可然井上準之助ヘ伝言相成度

紐育監督役ヨリ 昭和二年十一月二十六日發電

う号 同 一十八日着

(本 論)

「ラモント」ハ貴下ヨリ同氏ノ message 11米国 rail ノ

積出カ滿州ニ於テ日本側ニ妨ケラレタル事實ナントノ確報ヲ有セラレ且此種積送ニ異議ヲ挿ミ或ハ遲滯ヲ來サシムルカ如キハ絶対ニ滿鉄及日本政府ノ方針ニ反スルモノナルコトヲ述べラレ度キ suggest ス「ラモント」ノ説明ニムレハ十一月二十一日前電伝言ニ述ヘタル奉天ヨリノ報道ハ

電文ヲ示シ極秘ニ相談致度トテ大要左ノ通り語レリ

一九一九年頃日本興業銀行ム National City BK トカ滿鉄社債リ闕シ Tentative 11國務省ノ消息ヲ伺ヒタル處 Hughes ハ本件ハ disputed foreign area 11対スル日本ノ

行動ヲ米國力積極的ニ承認スルコトトナリ面白カラストテ反対ノ意向ヲ表シ其態度ハ今日迄國務省ノ方針トシテ繼續セルニ仕 Mitchel ミリ注意モアリ過般同人ト共ニ Kellogg ニ面会當時ト事情ノ異ナルコトヲ指摘シ此社債發行ヲ拒絶セハ支那側ハ喜ハムモ日本側ノ不快ヲ買ヘシト説明大体其同意ヲ得タル折柄日本官憲カ U. S. Steel ノ支那側ヘノ壳却 rail 運送差止方滿鉄ニ命シタリトノ電報米國奉天總領事ヨリ國務省へ到着ノ為ニ輿論考慮滿鉄社債問題行惱トナレリ National City BK 調査ニ依レハ本件ハ奉天ニ於ケル噂ニ過キサル由ナルモ自分トシテハ今回カ日本ノ為メ國務省從来ノ態度変更ノ好機会ト考ヘ U. S. Steel ノ日本トノ関係ヲモ考慮ノ上種々努力シタル結果日本政府ニ於テ米国品排斥干涉ノ意ナキコトノ意向明白トナラハ國務省ハ滿鉄社債發行ニ異議ナキ旨ノ内諾ヲ得ル迄ニ漕キツケタリ就テハ滿鉄側ニ於テ發行条件ニ対シ彼是意見アリトモ此際發行

日本政府カ軌道積送ノ抑留ヲ命スルコトアルヘントノ觀察ノ結果カ米國政府官吏ノ耳ニ入レルニ基ケルモノナリシ由而シテ此風説カ「ラモント」ニ達スルマテニ該命令既ニ發セラレ且実行セラレタリト言フ形トナレルモノナリト「ラモント」ハ本件ハ此種無用風説ノ如何ニ起リ易キカヲ示スモノナリトナセリ

右電報案手交ノ際「ラモント」曰ク國務省ノ日本ニ対スル態度ハ非好意的ニ(1)語不明カ友情的ナリ然レトモ新聞記事其他世論ニ対スル關係アリ自分ニ於テ井上氏ヨリ斯様ノ申越モアリトテ日本ノ態度ヲ説明スレハ國務省ノ立場ヲ安易ナラシムル次第ナリト

(外記入)
desired acquaint us with the nature of protest recently received by the Department regarding to the projected Loan.

These include as you would naturally presume communication from various points in China including so-called Peking Government violent protest from General Chang Tsolin and an actual threat of Boycott of American goods in China. The newspaper press here has been filled for the last few day with similar despatches.

Scare head line in this morning's Times says Japan threaten Manchuria action.

We are also in receipt of various communications from societies and associations in America concerned with socalled Chinese national aspiration; also from various peace society expressing fear of proposed

Loan being a cause of future war.

From all the foregoing, the following fact appear to my partner and myself to stand out clearly:

1. The State Departmet has in no way changed its more favourable attitude as outlined to you in our cable of Nov. 23^d, in fact official today again reiterat-

ed that Depart interposed no objection this important point of view being very satisfactory.

2. Depart officials however are manifestly uneasy on account of all protests both of domestic and foreign and certainly it would relieve their mind if we were to postpone this operation somewhat until the storm appeared blown over. It would I think be tactful both of from your and our point of view to be able to gratify their wishes in this way.

3. To crowd through this operation immediately in the face of much adverse newspapers comments here might be slightly detrimental to Japanese interest in America.

There would be nothing in any way seriously (?) involved but as friend of yours we should prefer that at this particular moment you avoid unnecessary criticism on this score. Certainly Japan's friend would not wish to (?) have her appear arrogant or entirely indifferent to views expressed here even though such

views be ill-founded.

It is also quite possible that the public subscription to loan issue which the newspapers have said so much would be affected adversely.

Capital is timid and most investors are not free from the influence of a statement(?) That a proposed operation is likely to produce international misunderstanding.

4. I think the best course for both you and us to adopt at this moment would be to say absolutely nothing either in the negative or the affirmative as to our plan for this Loan letting the newspaper and the Chinese blow off steam and the matter would soon die down.

The officer of the railway should not say that negotiations are postponed nor (?) make any statement calculated to give comfort to the critics. For your information National City Bank of N. Y., Kuhn, Loeb & Co., and First National Bank (?) all join us in this recommendation.

Meantime I will write you very fully explaining all the aspects of the (?) situation which cannot be covered by cable and will venture to make to you one or two constructive suggestion. On receipt of this letter you would after consultation with your associate cable us your view and by that time or a little later the situation would we hope probably have clarified sufficiently to warrant procedure. It is very disappointing to us and especially to myself to have to change the opinion expressed to you on Nov. 23rd and to give you this new advice at present time. Our first inclination at the time of our last message to you was to disregard all criticism and to proceed forthwith, but the more prudent course seem to be to go to more slowly and to try to temper the criticism rather than affront it. We think there is no unfavourable point(s) in this because if we refrain (from) making any announcement on either side the Chinese cannot claim that their outcries have stopped the operation. In fact

we are fortunate in having steadfastly declined here to enter into any public discussion of the matter. We consider it would be advisable for price (s) Waterhouse accountant in Tokyo to proceed with the work of checking up the figures so as to save us all times later on and if you approve we will cable point to be checked up. The market here is about as heretofore.

If we were to have to undertake the operation today it would probably be at a issue price of $94\frac{1}{2}$ one half point lower than the price suggested before I sailed this difference being chiefly due to the unfavorable press report to which I have alluded.

We await with considerable anxiety your advice on the foregoing

Sincere regards

Thomas W. Lamont.

(欄外記入) 11' 11' 11' 井上日銀総裁持参

(右訳文)

御伝旨難有接受致シタリ内密ニ御通報致ス次第乍ラ実ハ日本國務省ノ高官來訪シ目下計画中ノ借款ニ関シ最近同省ノ接受セル抗議ノ如何ナルモノナリヤヲ小生等ニ通報シ吳ル所アリタリ此等抗議中ニハ貴下モ必ラス推察セラルル如ク支那各地及所謂北京政府ヨリノ通信、張作霖將軍ヨリノ烈シキ抗議及支那ニ於ケル米國貨物排斥ノ威嚇等ヲ包含シ居レリ当地新聞モ此ノ數日來同様ノ通信ヲ以テ満タサレ居リ今朝ノ「タイムズ」ノ如キ大見出ニ「日本ハ滿州ニ於ケル行動」出テヘンベ記シ居ル有様ナリ又小生等ノ手許ニモ所謂支那ノ国民的要望ノ問題ニ關係スル米國諸協会及團体ヨリ各種ノ通信接到シ居リ又諸種ノ平和協会ヨリモ本件借款ハ将来戰爭ノ原因トナル虞アリトノ通信參リ居レリ以上ノ事情ヨリセハ小生ノ同僚及小生ニトリテハ次ノ事實明瞭ニ看取セラルル様考ヘラル

一、國務省ハ十一月二十三日ノ拙電ヲ以テ申進メタル好意的態度ヲ毫モ変更セス現ニ本日モ同省員ハ同省ニ於テ何等異議ナキ旨ヲ繰返シタル次第ニテ此ノ重要ナル見解ハ甚タ満足ナリ

11' 然レトモ國務省ニ於テハ國ノ内外ヨリ来る各種ノ抗議ノ為不安ニ感シツツアルコト明瞭ニシテ若シ吾々ニ於テ此ノ嵐ノ過キ去ル迄少シク本件實行ヲ延期スルコトトナラハ同省側ヲ安心セシムルコトヲ得ヘク斯ク同省側ノ希望ニ副フコトハ貴下ノ見地ヨリスルモノ小生等ノ見地ヨリスルモ何レモ得策ナルヘシト思考ス

11' 当地幾多ノ不利ナル新聞ノ論評ニモ拘ラス即時本件ヲ決行スルハ聊カ米國ニ於ケル日本ノ利益ニ対シ有害ナルヘキヲ虞ル

何ノ途重大ナル影響ハナカルくシテスルモノ小生等ハ貴下ノ友人トシテ貴下カ此ノ際此ノ点ニ付無要ノ非難ヲ避ケラレムコトヲ願ハサルヲ得ス申ス迄モナク日本ノ同情者ハ日本カ當地ノ意見ニ對シ仮令ソレカ誤リタルモノナリトセ之ヲ輕蔑シ又ハ全然之ニ無関心ナルカ如キ様子ヲナスコムヲ好マサル次第ナリ又斯ク迄新聞ノ書キ立テタル社債ノ公衆募集ハ之カ為面白カラサル影響ヲ受クルコトアルヘシ元來資本ハ臆病ナルモノニシテ投資者ノ多クハ國際上ノ悶着ヲ惹起スル虞アル計画ナリナトノ説ニハ動サレ易キモノナリ

四、貴下及小生等ノ双方ニトリ此ノ際執ルヘキ最善ノ方法ハ本件借款ニ對スル吾々ノ計画ニ付テハ否定的ニモ肯定的ニモ全然何事ヲモ口外セサルニアリト思考スサスレハ新聞及支那人モ活動ヲ止ムルコトトナリ事態ハ間モナク鎮靜スヘシ鐵道公社側ニ於テモ本件交渉延期セラレタルコトヲ口外スヘカラス又評論家ヲ喜ハスカ如キ何等ノ声明ヲモ為スヘカラス御含迄乍ラ紐育「ナショナル、シティー、ベンク」「クーンンーブ」商會及第一「ナショナル、シル、ベンク」ハ何レモ右ノ方針ニ同意セリ

電報ヲ以テ尽シ難キ諸般ノ事情ハ追テ書翰ヲ以テ詳細説明申上ケ且一二積極的卑見ヲ併セテ申進シ度キ所存ナリ貴下ニ於テ右拙翰御落手ノ上ハ御同僚ト御協議相成御意見回電相成様致シ度シ其ノ頃迄ニハ恐ラク事態モ明瞭トナリ安心シテ實行シ得ルニ至ルヘシ去ル十一月二十三日貴下ニ申送リタル意見ヲ变更シ今ニ至リ斯クノ如キ新シキ忠言ヲ致ササルヲ得サルハ小生等殊ニ小生自身ニトリ誠ニ遺憾ノ次第ナリ前電當時ニ於ケル小生等最初ノ意向ハ總テノ非難ヲ無視シ遲滞ナク進行スルニ在リタリ然レトモ今一層慎重ナル方法ハ寧ロ徐々ニ進ミ以テ非難ニ対

シ挑戦的態度ヲ採ルコトナク之ヲ緩和スルコトヲ試ムルニ在リト認メラル右ニ付テハ何等不都合ノ点アルナシ何トナレハ吾々カ何レノ側ニ於テモ何等ノ發表ヲモ為ササレハ支那人ハ彼等ノ叫ヒニ依リ本件実行ヲ阻止セリト公言スルヲ得サルヘケレハナリ誠ニ吾々カ当地ニ於テ本件幸ナリ

尚後ニ於テ時日ヲ節約スルカ為今ヨリ東京ニ在ル会計士「ヲーターハウス」ヲシテ数字調査ノ仕事ニ著手セシムルコト可然ト存ス若シ御同意ナラハ調査スヘキ点ヲ電報致スヘシ當地市場ハ大体是迄通リナルカ若シ日本件実行ヲナストセハ發行価格ハ恐ラク九十四半即小生出帆前ニ御話致シタル価格ヨリ一ポイント半安ト相成ルヘシ此ノ差ハ主トシテ上述新聞ノ面白カラサル行動ニ基クモノナリ

以上ニ対スル貴見御回示ヲ切ニ待ツ 敬具

トーマス、ダヴリュー、ラモント

田中外務大臣より
在中國芳沢公使宛 (電報)

246 昭和2年11月30日

支宛ニハ「往電第五二二号ト共ニ奉天ニ転電アリ度シ」
ト付記スルコト
〔在北京杉坂(悌二郎)公使館付海軍武官より
在中國芳沢公使宛 (電報)
野村軍令部次長宛 (電報)〕

247 昭和2年11月30日

楊宇霆の英米記者に対する満鉄借款問題等に
関する談話並びにこれに対する芳沢公使の反
駁について

機密一三七番電

楊宇霆ハ昨日英米新聞記者ニ対シ大要左ノ如ク談レリ

一、米国カ満鉄借款ニ応スル説アルハ支那国民ノ大ニ遺憾トスルトコロナリ英國カ支那ニ巨額ノ投資ヲ為サントノ説ハ日本カ米国ヲシテ速ニ借款ヲ承認セシメンカ為ノ宣伝ニシテ事実ニ非ス日本東三省利源開発トノ宣伝ハ全ク普選ヲ前ニ控ヘタル田中内閣ノ対内策ナリ但シ東三省開発ノ為直接支那ニ万全ノ策ナラハ大ニ歓迎ス

二、日本ノ満蒙交渉ハ進行中ナリト云フモ最初決裂シタル後協議シタルコトナク今後モ協議ノ必要ナシ山本満鉄社

日本政府は滿州における外国の経済活動を排斥する意思のないことを井上日銀總裁よりラモントへ電報せしめたることについて

本省 11月30日後発 合第二四五号

往電第(支宛ニハ五二二〇)号ニ関シ
(四一文書)

「ラモント」ヨリ國務省へ協議シツツアリタル折柄日本官憲ガ U.S. Steel ヨリ支那側へ売込ミタル「レール」ノ輸送差止方ヲ満鉄ニ命シタリトノ電報在奉天米國總領事ヨリ「ラ」ヨリ日本政府ノ「アッショアランス」取付方井上總裁宛來電アリ同總裁ヨリ協議アリタルニ依リ同總裁ヨリ「ラモント」ニ宛テ「日本政府ハ滿州ニ於テ外國ノ利益ニ對シ差別ヲ為シ又ハ外國ノ通商上若クハ企業上ノ行動ニ干渉スルカ如キ何等ノ意思ヲモ有セザル」旨言明スヘキ「オーナー・リゼーション」ヲ与ヘラレタル旨並前記輸送差止ノ報道ハ事実ニ非ザル旨ヲ二十九日電報セシメタリ
米宛ニハ「在英大使及在紐育總領事ニ転電シ英ヨリ仏ニア暗送セシメラレ度シ」ト付記スルコト

248 昭和2年11月30日

在ニユー・ヨーク内山總領事代理より
田中外務大臣宛

中国の主要銀行家及び実業家は満鉄借款反対

決議を在米中国公使宛に打電し、國務長官に提出方依頼した等の新聞記事について

普通第六一七号

昭和二年十一月三十日

(12月21日接受)

在紐育

総領事代理 領事 内山 清

外務大臣男爵 田中 義一殿

満鉄借款ニ関スル新聞記事及論評ニ關シ報告

ノ件

予テ拙信ヲ以テ報道致置キタル満鉄新借款ハ其后当地新聞界ニ相當問題トナリ二十四日發行当地主要新聞ハ大要左ノ如キ上海電報ヲ掲載セリ

支那ノ主要銀行家及実業家ハ在米支那公使宛ニ借款問題ニ就キ反対決議ヲ打電シ國務長官ニ提出方ヲ依頼シタリ該決議ハ曰ク満鉄ハ帝國主義ヲ奉スル日本ノ政治経済政策ノ手段ニシテ商業的企業ニ非シテ滿蒙ニ於ケル日本ノ侵略的政策ヲ助長スルノ具ニ供セラルモノナリト

且又上海總商會揚子江岸商業會議所連盟銀行家集会及太平洋協会ハ協議ノ結果「米國ハ其ノ伝統親善政策ヲ固持シ日本ノ支那ニ於ル侵略ニ援助ヲ与ヘザランコトヲ期ス」ト尙ホ華盛頓電報トシテ駐米支那公使「サオケアルフレッドスッエ」氏ハ是等反対決議文ヲ携ヘ國務長官「ケロッグ」氏ヲ訪問シタリト報セリ

然ルニ右ニ關シ二十六日付当地各新聞ハ大体ニ於テ左記ノ如ク一致セル意見ヲ表明シ居レリ

銀行家ハ正式ニ國務省ニ同意ヲ求メタルモノニ非サルコトハ既報ノ如クナルカ國務省トシテハ不同意ニ非ラサルコトハ報道セラレタリ其ノ理由ニ關シテ國務省ノ役人ノ觀測スル處ニヨレハ新借款ハ差別的待遇ヲ意味セナルヘキヲ以テ何等米國ノ極東ニ於ケル機會均等門戸開放政策ニ抵触セサルヲ以テナラン

又二十六日發行当地「ジャーナルオブコンマース」ハ大要左記ノ如ク極メテ強ク國務省ノ新借款ニ同意スルコトノ危険ナルヲ力説セリ滿州ハ事實ニ於テ南滿鐵道ニヨリテ日本ノ支配下ニアリ且是ナクシハ各國論争ノ餌タリシナランコトハ明白ナルモ新借款ニ同意スルニ当リテハ日本ノ勢力範

圃内ニ於ケル現状維持ヲ条件トスルコト肝要ナリ
或ル一部ノ投機者ニトリテハ該借款ハ日本政府ノ借款ト同程度ニ安全且有利ナルモノナリソハ滿州ニ於ケル足場ハ日本ニトリテハ過剰人口ノ捌口トシテ大陸ニ於ケル政治的根拠地トシテ且又日本ノ資本ノ投資地トシテ極メテ重大ナ意義ヲ有スレハナリ

然ルニ過去ニ於テハ日本ハ米国資本ノ南滿ニ於ケル其ノ勢力範囲内ニ侵入セントセルヲ極力阻止シタルニ反シ此度全然其ノ態度ヲ変セシコトハ米国經濟外交ノ勝利ト称スヘキモ大部分ノ米国人ハカカル政治上敵ヲ作り又ハ全世界ニ対ニ対シテ犯意ヲ有セント否トニ拘ラス如何ニ吾政府當局カ

東京 12月1日後着
大連 12月1日後着

249 昭和2年12月1日 満鉄東京支社長より
山本満鉄社長宛(電報)

満鉄による米国側排斥等に関する虚報について

特暗

曩ニ奉天駐在米國總領事ヨリ満鉄カ「ユー・エス、スチール」ノ支那側ニ壳リタル軌条ヲ運ハヌナトト全然跡形モ無キ虚報ヲ米國々務省ニ致シタルヤノ情報アリ今亦此程満鉄視察ニ來リタル北京米國公使館付武官カ奉天ニテ某氏ニ向ヒ日本ハ門戸開放ヲニスルモ事実然ラス其ノ一例トシテ四洮鐵道ヘノ機關車壳込ニ就テハ米國側ハ排斥セラレ満鉄カルコトヲ主張スルモ支那人ハ我國務省ノ從來常ニ詭弁ヲ弄ミ故ニ我國務省カ私ノ資本ト政府トハ全然異ナレル實在ナ

注文ヲ奪ヒ去レリ「ボールドヴィン」会社ヲ代表スル「ア

ンダーソン・マイヤー」商会ハ右ニツキ甚々反感ヲ抱ケリト語リタル由而モ之亦全然誤解又ハ捏造ニシテ四洮線ノ機関車買入レハ十二輛ヲ入札ノ結果「チエツコスロヴキヤ」ノ「スゴタ」商会及英商「アーノルド」商会ヲ通シテ「ベルギー」ノ「オナルド」会社ニ注文スルコトニ略決定シタルモノヲ最近ニ至リ内四輪丈ヶ沙河口工場ニ注文スルコトニ話ヲシケタル迄ニシテ當方トシテハ右以上四洮局当事者等ノ注文ヲ掣肘シタルコトモ干渉シタルコトモ無ク全然自由ニ彼等力行ヒタルナリ尚今日ノ支那人カ滿鉄トノ借款關係ニテ斯ルコトガラニ滿鉄ヲシテ仲介セシムル等ハ思ヒモヨラヌコトナリ唯先日「アンダーソンマイヤー」商会ノマイヤバ氏當地通過ノ際本職ニ向ヒ四洮局ト滿鉄トノ關係ニツキ尋ねタルニヨリ二者ノ間ニ借款關係アル旨ヲ答ヘタル処左様ノ關係ニ在ルニ拘ラス日本側ヲ全然排除シテ「ベルギー」ヤ「チエツコ」ニ機関車ヲ注文スルハケシカラヌコトニアラスヤ此際米国政府日本政府トヲ半々位ニ押付クル工夫シテハ如何ト述ヘタルニ付本職ハ（以下不明、再電方本社へ申送リタリ）

之ニ対シ金ハ滿鉄ヨリ融通シテ貰ヒナカラ全然日本商人ヲニテ本件借款ニ反対シ居ル旨ノ報道一般ノ注意ヲ惹起シ國務省ノ立場相當困難ナルモノアルカ如ク認メラレタルヲ以テ往電第三〇〇号國務長官トノ会談ノ機會ヲ幸本件ニ言及シ政府ヨリノ訓令ニ基クニ非サル旨ヲ断リタル上最近新聞紙上ニテ支那側ヨリ抗議アリタル旨ノ報道ヲ見タルカ右ハ事実ナリヤト問ヒ夫レト無ク先方ノ意向ヲ探リタル處國務長官ハ張作霖側及其他ノ方面ヨリ抗議アリタルハ事実ナリト述ヘタル上「ラモント」ヨリ非公式ニ話ヲ聞キタルモ未タ正式ニハ何等ノ申出無キヲ以テ國務省トシテハ之ヲ承認又ハ否認スル態度ヲ表明スヘキ時期ニ達セスト答ヘタルニ付本使ハ滿州ニ於ケル日本ノ政策ヲ適當説明スルト共ニ貴電合第二四五号ニ基キ滿鉄ニテ「ユ一、エス、ステイル」ノ貨物輸送差止ノ誤報ナル旨並ニ日本ハ滿州ニ於ケル外國人ニ対シ差別的待遇ヲ与ヘ又ハ經濟的利益ニ干渉スルカ如キ何等ノ意図ヲ有セサル旨ヲ説明シ置ケリ

英及紐育ニ転電シ英ヨリ仏ニ暗送セシム

251

昭和2年12月(5)日

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

満鉄借款に関する伍外交部長の米国國務長官

ルギー」ノ「オナルド」会社ニ注文スルコトニ略決定シタルモノヲ最近ニ至リ内四輪丈ヶ沙河口工場ニ注文スルコトニ話ヲシケタル迄ニシテ當方トシテハ右以上四洮局当事者等ノ注文ヲ掣肘シタルコトモ干渉シタルコトモ無ク全然自由ニ彼等力行ヒタルナリ尚今日ノ支那人カ滿鉄トノ借款關係ニテ斯ルコトガラニ滿鉄ヲシテ仲介セシムル等ハ思ヒモヨラヌコトナリ唯先日「アンダーソンマイヤー」商会ノマイヤバ氏當地通過ノ際本職ニ向ヒ四洮局ト滿鉄トノ關係ニツキ尋ねタルニヨリ二者ノ間ニ借款關係アル旨ヲ答ヘタル処左様ノ關係ニ在ルニ拘ラス日本側ヲ全然排除シテ「ベルギー」ヤ「チエツコ」ニ機関車ヲ注文スルハケシカラヌコトニアラスヤ此際米国政府日本政府トヲ半々位ニ押付クル工夫シテハ如何ト述ヘタルニ付本職ハ（以下不明、再電方本社へ申送リタリ）

之ニ対シ金ハ滿鉄ヨリ融通シテ貰ヒナカラ全然日本商人ヲニテ本件借款ニ反対シ居ル旨ノ報道一般ノ注意ヲ惹起シ國務省ノ立場相當困難ナルモノアルカ如ク認メラレタルヲ以テ往電第三〇〇号國務長官トノ会談ノ機會ヲ幸本件ニ言及シ政府ヨリノ訓令ニ基クニ非サル旨ヲ断リタル上最近新聞紙上ニテ支那側ヨリ抗議アリタル旨ノ報道ヲ見タルカ右ハ事実ナリヤト問ヒ夫レト無ク先方ノ意向ヲ探リタル處國務長官ハ張作霖側及其他ノ方面ヨリ抗議アリタルハ事実ナリト述ヘタル上「ラモント」ヨリ非公式ニ話ヲ聞キタルモ未タ正式ニハ何等ノ申出無キヲ以テ國務省トシテハ之ヲ承認又ハ否認スル態度ヲ表明スヘキ時期ニ達セスト答ヘタルニ付本使ハ滿州ニ於ケル日本ノ政策ヲ適當説明スルト共ニ貴電合第二四五号ニ基キ滿鉄ニテ「ユ一、エス、ステイル」ノ貨物輸送差止ノ誤報ナル旨並ニ日本ハ滿州ニ於ケル外國人ニ対シ差別的待遇ヲ与ヘ又ハ經濟的利益ニ干渉スルカ如キ何等ノ意図ヲ有セサル旨ヲ説明シ置ケリ

英及紐育ニ転電シ英ヨリ仏ニ暗送セシム

無視スルカ如キ態度ヲ執ルハ如何ニモ不穏當ト思フモ今時ノ支那人ノ「テンパー」ハ斯ルコトニ容喙スルヲ許サヌ満鉄モ此種ノコトニハ頗ル寛大ナル態度ヲ持シ居レリト答ヘタリ

以上ニテ事態明瞭ナル如ク滿鉄ニ於テ米國側排斥等トハ全然事實無根ノ誣言ナル處右米國民官ノ語ハ米國々務省ニ通報セラレタリト思ハル節アルニ付キ此際本情報ヲ外務省ヲ經テ松平大使ニ移牒シ置カレテハ如何カト思料ス

250 昭和2年12月(2)日 在米国松平大使より
田中外務大臣宛(電報)

満鉄借款に関し國務省としての態度を表明する時期に達していない旨の國務長官談話について

ワシントン 本省 12月2日後着 第三〇一號

滿鉄社債ニ關シテハ何等御訓令ヲ受ケ居ラサルノミナラス「モルガン」商會ヲシテ話ヲ取り運ハシムル方却テ安全ナリト認メ今日迄國務省ニ對シテ何等措置セサリシカ支那側ノ通

中國々民ハ滿鉄借款ノ米國ニ於テ發行セラレムトシ且米國政府モ默認セリヤノ消息ニ接シ驚愕セリ蓋シ南滿鐵路ハ實業的經營ニ非ス实ニ中國ノ一部分ナル広大ニシテ富饒ナル土地ニ對スル外人支配ノ表徴ニシテ其道具ナリ是ハ素ヨリ世間周知ノ事ナルカ之ヲ最モ熟知セル者ハ米國ニ如ク者ハ無シ日本ハ彼ノ二十一箇条ノ要求ヲ利用シ以テ其支配ヲ延長セムト欲セリ米國ハ右日本ノ要求ノ為屢々中國ニ同情ヲ發セリ今若シ其支配ヲ鞏固ナラシムル資料ヲ米國ヨリ与ヘラレムトスルニ對シ中國々民ハ米國ノ對華態度カ根本ヨリ變更アリタルモノト解シ殆ト之ヲ諒解スルニ苦シムモノナリ國民政府ハ米國政府カ右借款ノ成功ヲ許容セスシテ其願著ナル從來ノ親善政策ヲ拠棄スルモノニ非ルコトヲ深ク信

スルモノナリ云々
在支公使へ転電セリ

252 昭和2年12月(7)日 在米国松平大使より 田中外務大臣宛(電報)

満鉄借款に関する伍外交部長の米国務長官に対する抗議並びに同借款交渉は無期延期となりたる旨の新聞記事について

ワシントン

本省 12月7日後着 発

第三〇七号

往電第二九八号ニ閲シ

(一) 四日上海発新聞電報ハ伍朝枢ヨリ國務長官ニ対シ満鉄社債問題ニ付抗議ヲ為シタル趣ヲ報シ又同日付「ニユウヨーク、タイムズ」上海特電ハ支那側ハ南北ヲ通シ少クト

モ表面上ハ本件社債反対ニ一致シ居レリト述へ居レリ

(二) 六日華府発「エー、ピー」通信ハ本問題ニ付過日國務省側ト銀行家トノ間ニ非公式ニ極ク大体ノ意見交換アリタルハ事実ナルモ銀行家ヨリ國務省ノ態度表明ヲ求メ来リタルコトハ今日迄無之由ニテ華府官辺ノ一部ニテハ支那右何等御参考迄報告ス

外務大臣男爵 田中 義一 殿

満鉄募債ニ対スル奉天省議会ノ反対通電ニ閲

スル件

今次満鉄ノ米国起債ニ対シテハ楊宇霆ノ英米記者會見談事件ヲ切掛ニ支那側一部ニ反対ノ声高マリツツアル處奉天省議会ハ本件満鉄社債問題ヲ中心ニ大反対運動ヲ目論見去ル三日米國大統領「クーリッジ」氏及吉林黒竜江兩省議会並北京外交部ニ宛テ左記訳文ノ如キ反対通電ヲ發シタル趣ナリ

ク尚回答ニ与リタシ

二、吉林黒竜江省議会宛

新聞ノ報スル處ニ依レハ日本ハ米国銀行團ヨリ巨額ノ借款ヲ為シ我カ東三省ノ經濟侵略政策ニ向ツテ直進シ我カ東三省ヲ見テ殖民地ト為ス我カ東三省ノ前途ニ絶大ナル危険アリ貴省ハ敝省ト同病相憐ノ關係ニアリ須ク和衷共濟ノ精神ヲ以テ反対主義ヲ提起シ合カシテ抵制スヘキナリ國務院外交部ニ電請シ米国政府ニ照会セシメ且ツ直接米国政府ニ借款阻止ノ電ヲ發スル外右查照弁理セラレタク尚回答ニ与リタシ

三、北京外交部宛

新聞ノ報スル處ニ依レハ日本ハ米国銀行團ヨリ巨額ノ借款ヲ為シ東三省經濟侵略ノ政策ニ向ツテ直進シ東三省ヲ視テ殖民地ト為スハ東三省ニ絶大ナル危険アリ直チニ米国政府ニ照会シ銀行團ノ日本ニ対スル借款ヲ阻止セシメ以テ我カ國カ日本ヨリ受クル經濟侵略ノ害ヲ免レ度シ右米国政府ニ打電スル外謹ンテ照会ス

本信写送付先 在支公使

一、米国大總統「クーリッジ」氏宛

米国上院外交委員長ポラ先生

新聞ノ報スル處ニ依レハ貴国銀行團ハ日本政府ノ巨額ナル借款ニ応シ東三省經濟侵略ノ政策ヲ施サシメントスト消息一度伝リ驚駭ニ堪ヘス敝代表等ハ日本ノ此ノ種ノ挙動及東三省ヲ視テ殖民地ト為スハ確ニ認ムル処ニシテ貴國カ經濟上ノ援助ヲ以テ敝國ノ主權ヲ侵略セシメントストルハ實ニ友邦ノ為メニ宜シカラス正義ヲ主持シ中米邦交ヲ敦睦ナラシメムコトヲ望ム

側ノ反対運動發展ノ模様ニモ顧ミ銀行家ヨリ改メテ國務省ノ態度表明ヲ求ムルコトアルヘキヤ疑問ナリト觀測シ居リト報シ又同日「ニユウヨーク、タイムズ」ハ「モルガン」社側ヨリノ聞込トシテ本件社債交渉ニ付テハ其後何等ノ進展ナク延期ノ形ナルカ一面満鉄側ハ所要金額ヲ日本内地市場ニテ調達スヘキヤノ外國筋ヨリノ情報モアリト報シ居レルカ尚五日華府発「ウォールド」特電ハ本問題ハ無期延期トナリタルモノノ如シト報シ將又六日ノ華府「ヘラルド」ハ日墨移民密約素破抜カ本件社債問題立消ニ与テ力アリタル次第ナリト為シ居レリ

紐育及英仏ニ郵送ス

253 昭和2年12月7日 在奉天吉田總領事より 田中外務大臣宛

満鉄借款に対する奉天省議会のクーリッジ米

國大統領等宛反対通電について

公第七三八号 昭和2年12月7日 (12月12日接受)

在奉天

總領事 吉田 茂(印)

254 昭和2年12月7日 在二ユー・ヨーク内山總領事代理より 田中外務大臣宛

中国側の満鉄借款反対運動後の関係銀行およ
び米国國務省の態度に関する新聞記事報告

普通第六二五号

(昭和3年1月9日接受)

昭和二年十二月七日

在紐育

総領事代理 領事 内山 清(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

満鉄新借款ニ関スル新聞記事切抜送付ノ件

本件ニ關シテハ已ニ數回御報告致置キタル通リ相当新聞界

ニ喧シキ議論ヲ惹起シ当初ハ大体ニ於テ樂觀論ヲ見タルモ

支那ノ反対以後ハ悲觀論漸時高マリ來リタリ本月六日發行

当地「ジャーナル・オブ・コンマース」紙ノ如キハ当初極

メテ借款問題ニ有利ナル記事ヲ載セタルニ拘ラス確実ナル

筋ヨリノ報道トシテ大要左ノ如ク悲觀論ヲ掲ケタリ

關係銀行トシテハ一先ツ此ノ問題ハ無期延期シ再ヒ國務省

ニ正式ニ相談セサルコトニ決心セル由ナルモコハ現在支那

朝野ノ反対カクノ如ク熾烈ナル現状ニ鑑ミテノコトナリト

観察セラル且又從來國務省ハ該問題ハ銀行家ノ私ノ問題ニ

シテ國務省ノ干渉スベキ性質ノ問題ニ非サル旨尚國務省ト

シテハ機會均等門戸解放主義ニ抵触セサル限り反対スヘキ理由ナキコトヲ述ヘタルニ反シ今日ハ全然態度一変シ該借款問題ハ正式ニ國務省ニ提出セラレサリシヲ以テ夫レ迄ハ國務省ノ態度ハ決定シ難シト述フ

米国政府ハ從来門戸解放機會均等主義ニ抵触セサル限り日本ノ満州ニ於ケル政策ニ反対セサリシニ支那ノ朝野ノ大反対ヲ口実ニ該借款ニ同意ヲ与ヘサルニ至リタル以上日米間ニ新問題ヲ提供シタリト云フ可シト

右ニ關シ新聞記事切抜別紙^(省略)ノ通り送付スルニ付御査収相成度シ

255 昭和2年12月11日 在奉天吉田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

奉天省議会の満鉄借款反対通電等に

関する莫省長の態度について

第三五二号 奉天 12月11日後発
本省 12月11日後着

往電第三五〇号ニ關シ

其後例ノ外交後援会モ在支各方面ニ満鉄借款反対通電ヲ發

シタル模様アリ省議会ノ反対通電ト云ヒ甚夕不都合ト認メ

ラルニ付館員ヲシテ省長ニ聞質サシメタル處省長ハ全然

回答ヲ避ケ現在省議会カ開会中ナルヤ否ヤモ知ラス又新聞

記事ニ付テハ過般吉田總領事ニモ話セル通り事実無根ノ記事多キニ付新聞記事ノ如キ一々氣ニ止メラレサル様頗度ク其他ノ方面ヨリノ情報ニ付テハ何モ知ラサルニ付何レ取調ノ上今後ノ措置等考慮スヘシト逃ヶ省長自身ノ考ヘヲ求メタルニ対シテモ満鉄外債ノ内容モ知ラサルニ付何等意見ヲ言ヒ難シト避ケタリ御参考迄

北京へ転電セリ

外務大臣男爵 田中 義一殿

満鉄借款ニ關連スル米國國務省ノ外債応募監督ニ關スル件

曩ニ十一月十七日付普通第六〇二号拙信報告ノ通り米國國務省カ歐州大戰以来憲法上ノ根拠ナキニ拘ラス米國銀行家ノ外債ヲ引受クルニ先立チ予メ國務省ノ同意ヲ得ルヲ要スル慣行ヲ生セシム爾來外債ノ米國ニ於テ募集セラル毎ニ該慣行ニツキ時ニ相当ノ議論ヲ見ルコトアリ

今般ノ満鉄借款問題モ亦本件ニ直接ノ関係ヲ有スルモノト認メラル

抑モ此ノ慣行ハ別添十月十四日付國務省ノ新聞社ニ對スル公表ニヨリテモ明カナル如ク「ハーデング」大統領時代當地銀行家トノ申合ニ基キ一九二二年三月三日付「今后米國銀行家ニシテ外債ヲ引受ケントスル場合ハ予メ國務省ト協議セラレタシ」トノ國務省ノ告知ニ基クモノニシテ蓋シ當時米國ニ於ケル連合國側ノ戰時債券ハ多額ニ上リ米國トシテハ該債券ヲ償却セシムルニツキテ相当大ナル惱ヲ感シ居レル際ニテ且又一方參戰國ハ其ノ經濟復旧ニ就キテハ米國ノ財政的援助ニ俟ツヨリ他ニ途ナカリシヲ以テ國務省トシ

ニ記載スルコトニセラルヲ以テ臺モ投資者ヲシテ惑ハシムル
カ如キコトハ有リ得ヘカラスト弁解シ居レリ然レトモ實際
ニ於テハ國務省ノ同意不同意ハ引受銀行ノ外債売出シニ際
シ其売レ行キニ極メテ重大ナル影響アリ其ノ販売人ハ國務
省ノ同意ヲ経タルコトヲ告ケテ一枚ニテモ多ク賣捌カント
スルハ人情ノ自然ト云フヘキナリ且又國務省ハ責任ヲ負フ
モノニアラサレトモ其ノ同意アル外債ハ一応安全ナルモノ
ト一般ニ信セラルルハ必定ナリ而モ后ニ不良投資トナラハ
國務省ハ實際上社会一般ニ対シテ其誤解ヲ惹起シタル点ニ
於テハ道義上ノ責ハ免カレサル可シ誤信シタル一般投資家
ニ過失ハアルナランモ斯クノ如キハ兎モ角誤信ヲ惹起シ易
キヲ以テ國務省ハ外債ニ関与セサルコトヲ要スト云ハ極メ
テ道理アル議論トイフヘク有力ナル反対論旨ト称スヘキナ
リ

反対者ノ主タル論点ヲ総合スルニ左ノ四点ニ帰着セリ
(一)法律上ノ根拠ナク憲法違反ナルコト(二)個人ノ取引ニ関スルモノニシテ之ニ干渉スルハ從来米國ノ認メ來リタル
Laissez faire (放任主義) ニ反スルモノナルコト(三)個人ノ投資者ヲシテ錯誤ニ落入ラシムル恐アルコト(四)外交上悪影響ヲ及ホスコト

先第一点ヨリ論スルニ憲法上大統領ニ与ヘラレタル権限内ニハ勿論明カニハ認メ居ラサルモ「クーリッヂ」氏ハ大統領ノ外交監督權ヲ有シ外国借款ノ如キハ外交ニ密接ナル關係アルヲ以テ当然大統領ノ権限ニアリト弁解シ居レリ而ルニ「グラス」氏ハ憲法上議会ハ外国トノ商業關係ヲ取締ル獨裁的權能ヲ有スルモノナレハ外国借款ノ如キハ商業關係

テハ米国ノ経済安定ノ必要上カカル相当危險性アル外債応募ニツキテ嚴重ナル取締ヲナスニ至リタルモノニシテ戰時手段トシテ米國ニトリテハ適宜ナル処置ト称スヘキナリサレト此ノ問題ニ付上院ニ於テハ可ナリ反対者多ク殊ニ民主党側ニ於テハ已ニ報道セルカ如ク元大蔵卿タリシ「カーチャーグラス」氏ハ真向ヨリ反対シ「ボラー」氏ノ如キ共和黨員スラ密カニ「グラス」氏ヲ支持シ居ルモノノ如シ

タルニ鑑ミレハ其ノ裏面ニ若シ拒絶セハ日米親善ニモ大イ
ニ影響スヘキヲ慮ル所有リタルハ伺ヒ知ルヲ得ン此点ニ関
シテハ單ニ英國ノタメノミナラス仏國中央銀行救済ニ際シ
テ英蘭銀行總裁「サー・モンタギュ・ノルアン」氏ト紐育準
備銀行頭取「ストロング」トノ間ニモ屢々論議セラレタリ
ト報セラル且又過去六年間ニ仏、伊、独諸國ノ米國ニ於テ
外債募集セントセシ時國務省ノ同意セサリシヲ以テ是レ等
諸國ノ大使ヨリ其ノ都度國務長官ニ大要左ノ如ク國務省ノ
當該慣行ニツキ口頭ヲ以テ抗議シ居リタリト伝ヘラレ居レ
リ

只ニ起債セントセシ国ニトリテ相当迷惑ナルノミナラス米
國政府トシテモ數多有利不利及余リ問題トナラサル外債ニ
一々闇与スルコトハ少々重荷ト称スヘシト
之ヲ要スルニ今猶本問題ニツキテハ可否何レモ議論決定ス
ルニ至ラス依然トシテ國務省ハ外債監督ノ慣行ヲ繼續シツ
ツアリ銀行側トシテハ前述ノ理由ニヨリ別段ノ反対ナキモ

ニ属シ若シ取締ル必要アレハ議会ニ於テ之ヲナスヘキナリト反対シ居レリ第二点ニ関シテハ常ニ米国ニ於テ個人企業ヲ取締ルニ際シテ種々異論ヲ惹起シタリ一八九〇年「シャーマン」反「トラスト」法(Sherman Antitrust Act)ノ發布セラレタルトキ米国伝統ノ放任主義ノ趣旨ニ反ストナシ憲法違反トイフ議論ノ出テタルヲ以テモ了解スルヲ得ルカ如ク放任主義ハ米国ニ於テハ相当重大ナ問題タリ而ルニ「グラス」氏ノ如キハ比喩ヲ輸出品ニ取りU・S・スチール会社「ジエネラル、モーター」会社ノ輸出品ヲ國務省力抑留スルカ如ク全然無用非常識ナル政策ナリト云ヘリ個人ノ投資者ヲシテ錯誤ニ落入ラレシムルトハ或外国借款ニ対シテ國務省カ同意ヲ与フルナラハ自然該外債ニ応募スル個人ハ極メテ安全ナルモノト信スヘク后ニ利子不払其他ノ損害ヲ蒙リタルトキハ彼等投資家ハ國務省ヲ攻撃スルコト必然ナリト云フ点ニアリ國務省モ其点ハ考慮シ「一九二二年三月三日」ノ告知ニモ記シアル通り外債ニ関スル協議ハ其經濟的価値ヲ調査スルニ非ス從テ國務省ハ該取引ニ關シ何等ノ責任ヲ負ハス且又趣意書其他ノ方法ニ於テ國務省ノ態度ニツキ言及スルコトヲ得スト云フ文言ヲ外債同意書

今議念リ於テ相当問題トナルナント観察セラルノノハナ
ラス満鉄外債ノ件トモ関係アルニ付右何等御参考迄ニ報告
申進ス

(別添)

DEPARTMENT OF STATE

October 14, 1927.

STATEMENT ALWAYS INCORPORATED IN

LOAN LETTERS

You of course appreciate that, as pointed out in the Department's of March 3, 1922, the Department of State does not pass upon the merits of foreign loans as business propositions nor assume any responsibility in connection with such transactions, also that no reference to the attitude of this Government should be made in any prospectus or otherwise.

FORM OF STATING "NO OBJECTION"

I beg to state that, in the light of the information

before it, the Department of State offers no objection to this financing.

257

昭和2年12月14日

在二ノ一・三ノ一内山領事より
出渕外務次官宛

満鉄借款が無期延期」至つた事情」について

(接受日不明)

昭和11年11月十四日

在紐育総領事館

内山 領事(印)

出渕 外務次官殿

拝啓 愈々御清祥奉賀候陳者満鉄借款問題ニ関シテハ先般十一月二十九日付拙信ヲ以テ申進メ置候次第モ有候処当地方ニ於ケル新聞記事論評其ノ他ハ華府大使館ヨリ取纏メ電報セラレタル通リニシテ又本件借款頓挫ヲ來セル経緯ハ既ニ井上日銀總裁ヨリ委細御聞込ノロトテ思考セラルルニ付右等ノ点ハ最早當館ヨリハ報告ノ要ナキ様被認候得共其ノ後小官ノ内聞スル儘ヲ前信ノ蛇足トシテ貴聞ニ達シ置キ度候

十一月八日「ラモン」帰紹ノ翌日「ラ」氏ハ直ニ「ナシ

京セサリシ為メ東京側ヨリハ利息其ノ他ノ經濟的条件ヲ云々スルノ返電アリ此レカ為メ本借款ノ成立ニニ、三日手間取り居ル内華府ニ於ケル「ラ」氏ト國務省側トノ会談ノ件暴露ノ電報ニ依リ恰モ支那側ニ於テ非常ナル反対運動ヲ惹起シ種々抗議ヲ寄セ来リ國務省側ニ於テモ不安ノ念ヲ懷クニ至リタルト共ニ所謂米国内ニ於ケル平和論者ヨリモ「モルガム」商會ニ対シ本借款ヲ非議スルノ投書ヲ頻々ト寄セ来リシニ依リ「モルガム」社トシテハ支那側ノ反対ハ敢テ恐る所ニアラサルモ仮令國務省ノ諒解ヲ得テ本借款ニ応スルトルモ万一千米国内ニ於ケル輿論カ不人氣若クハ之ニ反対ナリトセハ社債ヲ市場ニ売出ス上ニ於テ相当ノ困難ヲ來スヘク從テ經濟的ニ不成功ニ終ルヤフ懸念シ旁々國務省側ノ立場ヲモ考へ遂ニ本件ヲ無期延期ニ決シタルヤノ趣ニ聞キ及ヒ候尤モ本件ニ關シ予メ適當ノ筋ヲ通シテ國務省ノ諒解ヲ取付ケ置キタル上ニテ借款談ヲ進メタルナランニハ其ノ成立ヲ容易ナラシメタルナラント観察スル向ナキニシモアラサルモ小官ノ觀ル所ヲ以テスレハ本件カ早クモ新聞紙上ニ喧伝セラレタル以上ハ支那側ノ抗議其ノ他ニ依リ議會開会ヲ控ヘタル國務省ノ態度カ曖昧トナリ從テ何レノ方法ニ

依リタリースルモ之レカ結果ニ付テハ別段ノ差異ナカリシモノト思考セラルモ只タ茲ニ注意スヘキ点ハ既ニ一九年ノ先例モアルコトナルニ付予メ國務省ノ内意ヲ夫トナク探リ置クノ機会アリシモノトセハ或ハ「ラモント」等ニ於テ借款条件其ノ他ノ点ニ付斯ク迄深入リセサリシ以前ニ於テ本件商議ヲ見合セ所謂名実共ニ Conversation Stage ニ止メ置クヲ得タルヘク從テ仮令今回本借款力成立セサリシトルモ或ハ他日輿論ノ喧シカラサル適當ノ時機ニ於テ手際好ク之ヲ成立セシムルノ望ミアリシヤモ知レス反之現在ノ所國務省側ハ表面本件ニ關シ正式ノ願出ナカリシトテ我方ニ素知ラヌ顔ヲ為シ居ルモ米國銀行側トシテハ滿鉄社債

ニ応募スルハ意外ニ面倒ナル問題ナルコトヲ相当強ク印象セシメラレタルヤノ感ナキニアラス即チ今回ノ頓挫ハ一九年ノ先例ト相並ンテ将来ニ瓦リ滿鉄起債ヲ益々不便ナラシムルト共ニ今後此種提議アリタル場合ハ更ニ先例ヲ引用シ支那側ヲシテ氣勢ヲ擧ケシムルコトナルヤヲ憂フルモノニ有之候尚ホ今期米國議會ノ問題トナルヘキ様察セラル前記外債応募ニ對スル國務省ノ監督問題ニシテ我方ノ有利ニ解決セラルルヲ得ハ此種起債モ容易トナルヘキ様被存候右格別御参考ニモナラサルコトトハ被存候モ當方聞込ノ儘ヲ御耳ニ入レ置キ度ク此段得貴意候 敬具

五 北伐と租界問題

(1) 漢口

258 昭和2年1月4日 在漢口高尾總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

漢口英租界における英中衝突事件について

漢口 1月4日後発 本省

1月5日後着

第五号

ル排英演説ヲ為シタル処付近ニ警戒中ノ英水兵ハ之ヲ中止セシメントシテ遂ニ両者間ニ葛藤ヲ生シ衝突（群衆ハ瓦礫ヲ投シ英兵ハ銃剣ヲ以テ防戦シ發砲セス）ノ結果英國側負傷三名支那側負傷四名（銃剣ヲ以テ刺サレタル二名ハ負傷後死亡シタル旨支那側ハ報道ス）ヲ生スルニ至リ両者暴力ヲ以テ対ス峙ルコト數時間ノ後夜八時頃武漢營派遣ノ軍隊ノ彈圧ニ依リ両者漸ク撤退スルニ至レリ

右衝突事件ハ支那側ニ最好ノロ実ヲ与ヘ治安維持ヲ名トシテ英租界ノ一部ハ既ニ支那軍隊配置セラレ剩ヘ群衆ハ任意ニ租界ノ防御工事ヲ撤去シ動モスレハ通行ノ英國人ニ對シ暴行ヲ加ヘントスル氣勢ヲ示シタルニ依リ英國領事館、工部局、税関其ノ他会社銀行ノ一部ハ本四日正午頃ヨリ門ヲ固ク閉シ門前ニハ武装支那兵警戒シ居ル状態ナリ

在支公使上海へ転電シ南京、九江、長沙、沙市、宜昌、重慶へ暗送セリ

伝等ニ異状ノ氣勢ヲ昂ケタリ偶々三日午後四時頃 英租界（税関前）ニ於テ中央軍政学校宣伝隊カ群衆ニ対シ猛烈ナ